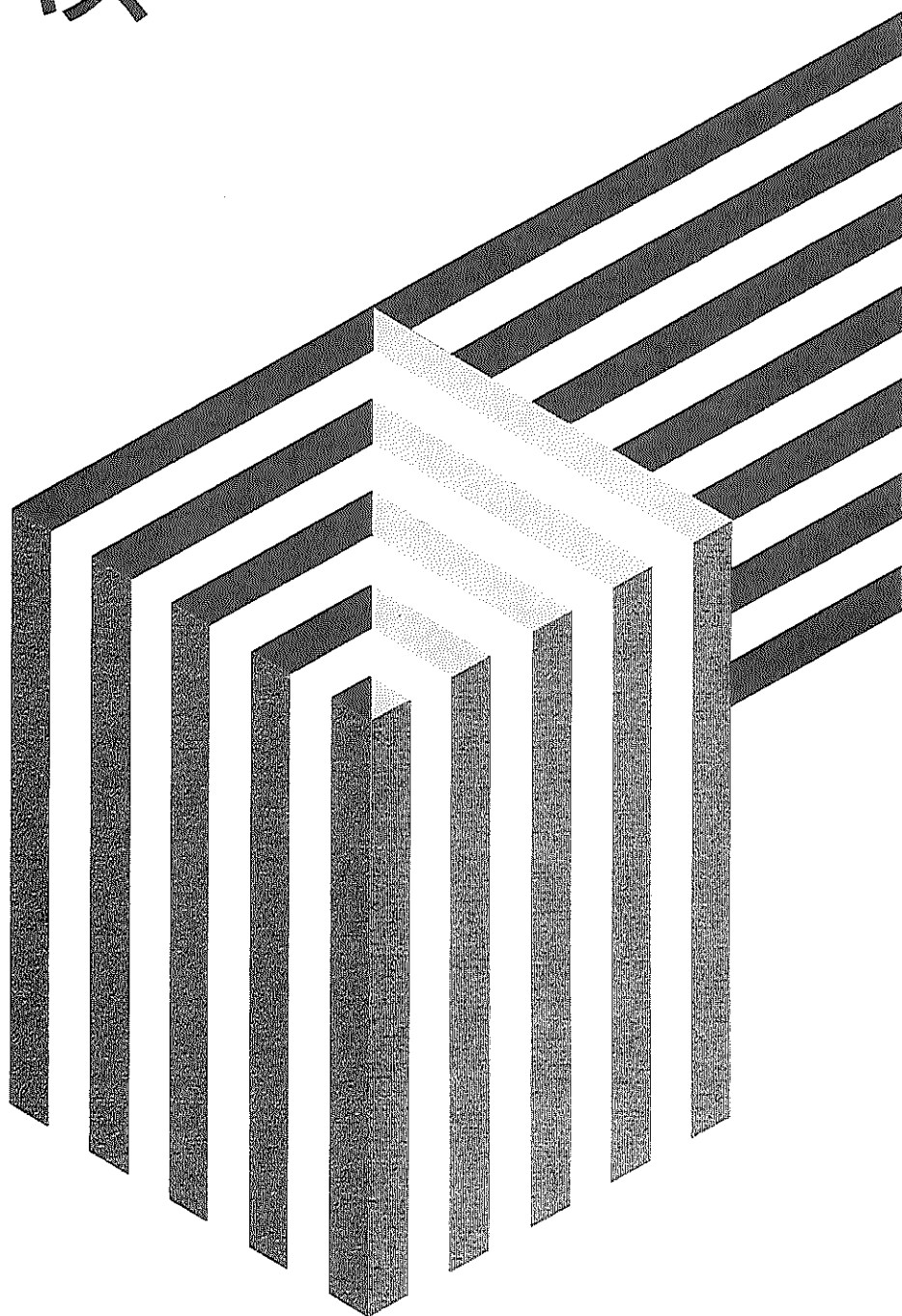


ドイツ語学科 シラバス



1994年度
Dokkyo Universität

目次の見方

- ① この冊子では、目次が1994年度入学者用と、1993年度以前入学者用とに分かれています。
- ② 目次では、部門ごとに科目名、指導教員名、掲載ページが記載されています。
- ③ 科目名と指導教員名の間に〔 〕で科目名が記載されている場合があります。これは、入学年度の異なるカリキュラムの科目と合併でおこなわれる授業です。

表示の仕方

〔 〕内（ ）はこの科目名の適用するカリキュラムを示します。

（新）……………新カリキュラム；1994年度入学者に適用

（旧）……………旧カリキュラム；1993年度以前入学者に適用

目 次

—新カリキュラム—
(1994年度入学者に適用)

「Ⅰ 言語・文学」部門

ドイツ語学概論…〔旧〕ドイツ語学概論	川島 淳 夫	4
ドイツ文学概論…〔旧〕ドイツ文学概論	亀谷 敬 昭	6

「Ⅱ 思想・芸術」部門

ドイツ文化史概論	渡部 重 美	8
----------	--------	---

「Ⅲ 歴史・社会」部門

ドイツ史概論	黒田 多美子	10
--------	--------	----

目 次

—旧カリキュラム—

(1993年度以前入学者に適用)

「ドイツ語学・文学」部門

ドイツ語学概論…〔(新)ドイツ語学概論]	川 島 淳 夫	4
ドイツ語学特殊講義		
1	渡 辺 学	12
2	H. Jarosch	14
中高ドイツ語	I. Albrecht	16
ドイツ文学概論…〔(新)ドイツ文学概論]	亀 谷 敬 昭	6
ドイツ文学各論	山 路 朝 彦	18
ドイツ文学特殊講義	関 徹 雄	20

「ドイツ文化」部門

ドイツの哲学	松 丸 壽 雄	22
ドイツの宗教	鈴 木 康 治	24
ドイツの歴史	古 田 善 文	26
ドイツの地誌	川 野 諫	28
ドイツ事情	H. H. Gähke	30
ドイツの民俗	杉 山 好	32
ドイツの音楽	近 衛 秀 健	34
ドイツの美術	片 岡 啓 治	36
ドイツの演劇	越 部 暹	38
ドイツ文化特殊講義		
1	船 戸 満 之	40
2	G. Wienold	42
ドイツの政治	深 谷 満 雄	44
ドイツの経済	大 西 健 夫	46
ドイツの法律	只 木 誠	48

	週	内 容
後 期	1	語のレベルから文のレベルについて、研究対象の問題を扱い、統論論の問題を考える。IC分析・文法範疇の発見手順について考える。
	2	生成文法・依存関係文法など、文法理論について考える。
	3	生成文法の概略を述べる。
	4	依存関係文法の概略を述べる。
	5	語の意味と文の意味について考える。
	6	語の意味論と語場の問題について述べる。
	7	文の意味と推論について述べ、発言行為理論について考える。
	8	テキストの意味とテキストの構成について述べ、最近のテキスト言語学の展開について述べる。
	9	テキストと会話の分析について述べる。
	10	言語実用語と発言行為理論について述べる。
	11	テキストの結束性とテキスト機能について、考える。文学テキストの美的機能もとり入れ、物語りの問題を考える。
	12	言語と行為について、社会学、哲学、記号学、などの視点から考え、テキストのもつ人間社会での役割について考える。
備考		

参考文献：下宮・川島・日置著『言語学小辞典』 東京：同学社 1985.

評価方法：評価は前後期とも筆記試験と出席回数によって行う。

(提出課題、試験等)

ドイツ文学概論

担当者：亀谷 敬昭

研究室：[433]

テキスト：

目 標：本講義はドイツ文学の疾風怒涛時代から20世紀に至るまでのドイツ文学の発展を概観し、それぞれの時代と作家の生き方が作品にどのように表現されたかを観察する。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟()

	週	内 容
前 期	1	近代ドイツ文学の出発。ゴットシェットの役割とフランス古典主義。フリードリッヒ大王について。
	2	ロココ文学とヴィーランドおよびクロップシュトックの文学的出発。啓蒙思想とレッシング。
	3	シェイクスピアとレッシング。レッシングの喜劇、「ミンナ・フォン・バルンヘルム」および彼の悲劇、「エミーリア・ガロッチィ」について。
	4	疾風怒涛代の若い作家たちとヘルダーの役割。ハーマンとヘルダー。
	5	ゲーテの文学的出発とシュトラースブルクにおけるヘルダーとの出会い。ヘルダーがゲーテに与えた影響について。
	6	ゲーテの二つの作品。「ゲッツ・フォン・ベルリヒンゲン」と「若いヴェルターの悩み」について。
	7	ゲーテのヴァイマル入りとその後の生活。イタリアへの出発。
	8	シラーの文学的出発。「群盗」の成立について。疾風怒涛時代の旗手としてのシラー。
	9	シラーのヴァイマル入りとゲーテのイタリアからの帰国。両者の協力によるドイツ古典主義文学の成立とその特質。
	10	シラーの晩年の作品「ワレンシュタイン」三部作と「ヴィルヘルム・テル」について。
	11	ゲーテの長編小説「ヴィルヘルム・マイスターの修業時代」と「ヴィルヘルム・マイスターの遍歴時代」について。
	12	ゲーテの「ファウスト」第1部と第2部。種々なファウスト作品とゲーテの作品の比較。
備考		

	週	内 容
後 期	1	ロマン派の文学運動とシュレーゲル兄弟。雑誌「アテネウム」の果たした役割。
	2	フィヒテ, シェリング, シュライエルマッヒャーなどの哲学者とロマン主義文学。
	3	ジャン・パウルとヘルダーリンの作品の特質。
	4	戯曲作家および短編小説家としてのクライストの作品。
	5	ロマン主義文学から写実主義文学への転換とその時代背景について。
	6	小説の時代を築き上げた19世紀のフランス, ロシアの写実主義文学とドイツ写実主義文学の比較。
	7	ドイツ自然主義文学の特質とゲルハルト・ハウプトマン。
	8	ハウプトマンの作品、「日の出前」と「職工たち」について。
	9	カフカの作品の特色。
	10	ヘッセの小説作品。「デミアン」と「荒野の狼」について。
	11	トーマス・マンの作品「ブッデンブローック家の人々」と「魔の山」について。
	12	20世紀のドイツ文学作品とその時代。
備考		

参考文献：授業時間中に指示する。

評価方法：前期はレポート、後期は筆記試験

(提出課題、試験等)

	週	内 容
後 期	1	産業革命・科学技術の時代の始まりⅡ —ブルジョワ階級の保守化と労働者階級の台頭。 (後期分資料の配布)
	2	ニーチェの近代文化批判。
	3	世紀転換期の文化Ⅰ —ユーゲント・シュティール (ミュンヘンの黄金時代)。
	4	世紀転換期の文化Ⅱ —表現主義。 レポート
	5	ワイマール文化Ⅰ —第1次世界大戦の後遺症と頹廢的な大衆文化。
	6	ワイマール文化Ⅱ —建築と映画。
	7	ナチス時代Ⅰ —ナチスドイツ内の文化。
	8	ナチス時代Ⅱ —国外に流出した文化。 レポート
	9	(ナチス時代Ⅲ) —ドイツ文化とユダヤ人は切っても切れない関係にあるが、ナチスによる大虐殺とからめてここで両者の関係を簡単に整理する。
	10	BRDの文化とDDRの文化。
	11	統一から今日まで。 レポート
	12	一年間のまとめ。
備考		

評価方法： 成績は年間6回のレポートによってつけるが、各レポートのテーマ、字数(提出課題、試験等)(枚数)、提出日等についてはその都度指示する。

ドイツ史概論

担当者：黒田 多美子 研究室：[509]

テキスト：

目 標：前期は、ドイツ史の中から基本的な概念を選び、その変遷と歴史的意味を考察します。後期は、近現代史の中から重要と思われる事項を選んで紹介した上で、皆で検討することによってドイツ史に関する理解を深めたい。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟()

	週	内 容
前 期	1	歴史を学ぶ事の意味：ドイツの学校では歴史をどのように学んでいるのでしょうか。日本の歴史教育との比較から歴史を学ぶことの意味を考えてみます。
	2	ドイツにおける過去の克服：ナチズムという負の遺産を、ドイツではどのように克服しようとしてきたのか、また現在しようとしているのかを探ります。
	3	フィッシャー論争と歴史家論争：1960年代と80年代に生じた、ドイツ史の連続性と特殊性をめぐる議論、およびその政治的背景について紹介します。
	4	Deutschland と Reich：ドイツ史を理解する上で重要な概念であるこの二つの単語が、どのような歴史的背景のもとに使われてきたかを紹介します。
	5	国民意識とナショナリズム：ドイツ人が自己をドイツ人として意識するようになったのはいつ頃からでしょう。またその国民意識はどう変化したのでしょうか。
	6	統一国家と国境：ドイツ人の国民意識と国境とが、相互にどのような関連を持ちつつ変化したのかを追ってみます。
	7	国家と教育：宗教改革、農民戦争、三十年戦争を経て領邦教会制が成立します。カトリックとプロテスタントそれぞれが国家の中で果たした役割を検討します。
	8	国家と教育：教育が国家による国民統合の手段として重要性を占めるようになる過程と、教育の持つ政治的役割を考察します。
	9	都市と市民、職人と親方：中世以来の都市の形成過程と、市民層、手工業者達の生活の歴史的変遷を紹介します。
	10	ドイツ人とユダヤ人：ユダヤ人という「人種」は存在するのでしょうか。中世以来のユダヤ人迫害の背景を探りつつ、差別と偏見について考えてみましょう。
	11	歴史の中の女性達：歴史の中に埋没しているかのように見える女性達にスポットをあて、特に近代の女性像の成立過程に注目してみたいと思います。
	12	レポートの書き方：前期の課題となるレポートのテーマと書き方について説明します。
備考		

週	内 容
後 期	1 1848年：三月革命と総括される一連の民主化運動を概観します。民主主義者と自由主義者、プロイセンとオーストリアを比較します。
	2 ドイツ帝国の成立：上からの統一が、その後のドイツにどのような影響を与えたか、国民の統合という観点から考察します。
	3 労働運動と社会主義：現在のドイツを規定する「社会的国家」という概念の基盤を形成した社会主義運動について理解を深めます。
	4 第一次世界大戦と総力戦体制：総力戦という言葉が始めて使われた第一次世界大戦の国民への影響について考えてみます。
	5 1918年11月革命：帝制から共和制への移行が、どのような過程で行われたかを中心に、共和国の政治的方向を規定した要因を探ります。
	6 ヴェルサイユ条約と戦争責任問題：第一次世界大戦後、ドイツ国民はこの戦争とその結果であるヴェルサイユ体制をどうとらえていたのでしょうか。
	7 ヴァイマル共和国の理念と現実：当時最も民主的といわれた憲法のもとに発足した共和国がわずか15年という短い期間に崩壊した原因を探ってみます。
	8 ナチズム運動の理念と現実：ナチズム運動が国民もひきつけた要因と、国民のナチ体制への組織化を検討します。
	9 ナチ体制に対する受容と抵抗：ナチズムを指示した人々と、反対した人々の立場を検討します。日本の戦前の国民生活も考慮に入れて考えてみて下さい。
	10 侵略への道：自国中心のイデオロギーのもとに、他国を侵略することがどういうことか、日本の場合も含めて考えてみたいと思います。
	11 ビデオ：未定
	12 まとめと討論：過去の克服という問題が、歴史的過去だけでなく現在とも密接に結びついている事を前提に、一年間の授業を振り返り討議します。
備考	

評価方法：前期はレポート、後期は未定

(提出課題、試験等)

	週	内 容
後 期	1	品詞論の射程（１） （概説）
	2	品詞論の射程（２） （動詞を中心に）
	3	品詞論の射程（２） （代名詞を中心に）
	4	統辞論の射程（１） （概説）
	5	統辞論の射程（２） （総合文をめぐる）
	6	意味論の諸問題（１） （概説）
	7	意味論の諸問題（２） （音と意味の関係）
	8	意味論の諸問題（３） （同義性、多義性）
	9	ドイツ近代言語学と現代言語学（１） （言語起源論）
	10	ドイツ近代言語学と現代言語学（２） （普遍論と相対論）
	11	ドイツ近代言語学と現代言語学（３） （言語と認識、認知）
	12	後期のまとめ（レポートについて）
備 考		

参考文献：ヘルヒビ（岩崎他訳）『近代言語史』 白水社 1973

評価方法：授業への貢献度および後期（学年末）レポートの内容によって決める。

（提出課題、試験等）

ドイツ語学特殊講義 2

担当者：H. ヤロシュ

テキスト：プリント配布 参考文献を別紙で知らせる

目 標：言語と社会との相互作用を理解することによって一層深い言語研究の心構えをそなえ、実生活に備えて、社会に対するより深い理解を整えることを目的とする。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟 ()

	週	内 容
前 期	1	Sprache als soziales System und ihre soziale Funktion 社会的システムとしての言語とその社会的機能 P 1
	2	Die Rolle der Sprache in der Gesellschaft 社会における言語の役割 P P 2 - 3
	3	Mißbrauch der Identifikation 同一化するときの乱用 P P 3 - 6
	4	Formung des Menschen durch die Sprache der Gesellschaft 社会の有する言語による人間形成 P 7
	5	Sprache in der Gesellschaft = Dialog 社会に通ずる言語：対話の事 P 8
	6	Das Geständnis und seine Bedeutung in der Gesellschaft 自白／告白と社会におけるその意義 P 9
	7	Das Versprechen und seine Rolle in der Gesellschaft 約束と社会におけるその意義 P 10
	8	雄弁術 P P 11-12
	9	Die Rezeption der Sprache in der Gesellschaft 社会における言語の受容（レセプション） P P 13-14
	10	Probleme der Sprache in der Gesellschaft (A) 国際社会における言語的問題（A） P P 15-16
	11	Probleme der Sprache in der Gesellschaft (B) 国際社会における言語的問題（B） P P 16-17
	12	Gemeinsame Ermittlung der Themenschwerpunkte und Hinweise für die schriftliche Semesterarbeit 前期のまとめと、最終的な結論・レポートの枠組みをきめること
備考		テキストは：ドイツ語 授業は：ドイツ語、事情により日本語

週	内 容
後 期	1 Sprache als selbstexplikative Handlung 言語の自己表現的な側面 P 1
	2 Sprache als kommunikative Funktion 言語とそのコミュニケーション的な作用 P 1
	3 Sprache und ihre sachliche Dimension 言語とその物理的な側面 P 2
	4 Die lebendige Sprache und ihre Modalität 生きた言葉とその様態 P 3
	5 Die lebendige Sprache und ihre Temporalität 生きた言葉とその時代の面影 P 4
	6 Sprache im Hinblick auf den pathologischen Befund der menschlichen Gesellsch. 社会の病理学上の状態をふまえた言語の使用 P 5
	7 Die Alltagssprache 日常の平凡な言語 P 6
	8 Die objektive Sprache der Wissenschaft 学問上の客観的な言語 P 7
	9 Die philosophisch-kritische Sprache 哲学上の批判的な言語 P 8
	10 Die politische Sprache 政治上のイデオロギー的な言語 P P 9-13
	11 Die religiöse Sprache 宗教上の確信的な言語 P P 14-19
	12 Zusammenfassung des Vortragszyklus. Besprechung der Abschlußarbeit 各講義のテーマの主要点を共同で見出しレポートの打ち合わせをすること
備考	Im SS und WS je ein Kommentar zu einem der angekündigten Themen erwünscht 前期、後期に一回づつとり上げられた講義に関してコメントを書く事が望ましい。

評価方法：評価は前後期各1回のレポートとコメントと授業への貢献度によって決定す
(提出課題、試験等)る。

前期のレポート提出日：7月23日

後期のレポート提出日：1月23日

週	内 容
1	Liebe/minne, die Rollen von Mann und Frau(Walther von der Vogelweide, Under der linden) (Dietmar von Eist, Ahi, nu kument uns diu zit)
2	Hochzeit/Ehe (Heinrich Wittenwiler, Der Ring)
3	Alter/Tod(Heinrich von Melk, Erinnerungen an den Tod)
4	Religiöse Vorstellungen(Walther von der Vogelweide, Fro Welt, ir sult dem wirte sagen)
5	Medizin, praktische Ratgeber(Gegen Insektenstiche, Gegen Zahnweh)
6	Die Stadt(Herzog Ernst)
7	Die Vorstellung von der Erde, vom Weltall(Konrad von Megenberg, Von dem Monen)
8	Reise/Kreuzzüge(Walther von der Vogelweide, Nu alrest lebe ich mir werde) (Übersetzung der Reiseerinnerungen des Marco Polo)
9	Heldentum in "alten maeren"(Nibelungenlied)
10	- " - (Nibelungenlied)
11	Das Problem der Übersetzung/Übertragung mhd. Texte
12	Zusammenfassung
備考	

ドイツ文学各論

担当者：山路 朝彦

研究室：[532]

テキスト：

目 標：ドイツ語圏における戦後文学の諸傾向を概観します。本年度は「抒情詩」を例にとりながら、文学と戦後の社会的状況との関連を概説します。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟 ()

	週	内 容
前 期	1	アドルノ：アウシュビッツと抒情詩
	2	1945：零時点からの出発
	3	廃虚の中の抒情詩
	4	アイデンティティー：伝統への架橋とその限界
	5	50年代の「自然」詩
	6	閉塞・沈黙から
	7	抒情的自我の演出
	8	コンクレーテ・ポエジーの実験
	9	60年代の「自然」詩
	10	パラダイム転換
	11	抒情詩をめぐる論争：1968
	12	DDR における抒情詩
備 考		

	週	内 容
後 期	1	68/71 以降
	2	70年代の抒情詩
	3	新主観主義
	4	詩の「民主化」
	5	DDR からの亡命詩人達
	6	80年代の抒情詩
	7	新主観主義以降
	8	形式への回帰
	9	新アバンギャルド
	10	多様性の中で
	11	ポスト・モダンという仮説のもとに
	12	
備考		

ドイツ文学特殊講義

担当者：関 徹雄

研究室：[520]

テキスト：Fritz Strich: Natur und Geist der deutschen Dichtung (ドイツ文学の性格と精神)

目 標：文学の精神史研究の立場に立つ論者のドイツ文学史にたいする基本的見解を示すテキストを用いて、ドイツ文学のみならず広くドイツ精神文化の特質の理解を目的とする。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟 ()

	週	内 容
前 期	1	精神史派文芸学の由来
	2	精神史派文芸学の展開
	3	精神史派に属するF. Strichの方法と特質
	4	第3回と同じ
	5	F. Strichのテキストを用いて講義を始める。 様式概念の意味 S. 1～2.
	6	ドイツ精神と古代ギリシャ精神 S. 3～4.
	7	形式法則とゴシック、バロック S. 5～6.
	8	ドイツ古典主義と古代ギリシャ芸術 S. 6～8.
	9	同上 S. 8～10.
	10	ニーベルンゲンリートとドイツ叙事詩 S. 11～12.
	11	古代ギリシャ劇と中世散文文学 S. 13～14.
	12	ゲーテ、シラーの古典主義と形式美 S. 15～16.
備考	以上について講義する。テキストは絶版なのでプリントして配布する。	

週	内 容
1	ドイツ人の芸術意志 S. 16.
2	ドイツ詩のドイツ的リズム S. 17.
3	ギリシャ悲劇の統一、完結性 S. 18.
4	ゲルマン神話の悲劇性 S. 19.
5	ゲルマン悲劇とドイツロマン派 S. 20.
6	同上 S. 21.
7	ゲルマン叙事詩とドイツ古典主義的形式 S. 22.
8	ゲルマン精神とドイツ古典主義的精神態度 S. 23~24.
9	ドイツ的諸様式の性格、特徴 S. 25~26.
10	同上 S. 27~28.
11	ドイツ古典主義の代表者ゲーテ、シラーの創造過程について S. 29~33.
12	同上 S. 34~38.
備考	以上についてテキストを用いながらも講義形式で授業を行なう。内容は論の積上げであるから欠席しないこと。

参考文献：授業時間中に随時提示する。

評価方法：評価は、前後期2回の試験による。テキストの内容についての解釈、説明を要求し、辞書、参考書等を持参してもよい。

ドイツの哲学

担当者：松丸 壽雄 研究室：[728]

テキスト：Karl Jaspers: Kleine Schule des philosophischen Denkens

(Serie Piper 54, ISBN 3-492-00354-0)

目 標：ドイツの思想を原文で読みながら、そこに現れる事柄を手掛かりにして、現代に生きる我々を取り巻く諸問題を考えてみる。

年間予定 () 曜日：() 限：() 棟 ()

	週	内 容
前 期	1	イントロダクション
	2	第6章「愛」1. Erinnerung an Paulus を読みつつその解説並びに検討、議論
	3	同 上
	4	2. Die geschichtliche Liebe を読みつつその解説並びに検討、議論
	5	同 上
	6	3. Der Antagonismus von Anfang an を読みつつその解説並びに検討、議論
	7	同 上
	8	4. Das Schema: Sexualität, Erotik, Ehe を読みつつその解説並びに検討、議論
	9	同 上
	10	同 上
	11	5. Die metaphysische Liebe を読みつつその解説並びに検討、議論
	12	同 上
備考		

	週	内 容
後 期	1	6. Die Fragwürdigkeit der Erscheinung der metaphysischen Liebe in der Welt を読みつつ内容を検討、議論
	2	同 上
	3	7. Kann die metaphysischen Liebe eintreten in die weltlichen Ordnung? を読みつつ内容を検討、議論
	4	同 上
	5	8. Das Ineinander der Momente der Liebe und die Unlösbarkeit im Grunde des Menschen を読みつつ内容を検討、議論
	6	同 上
	7	同 上
	8	9. Liebe und Gewissen を読みつつ内容を検討、議論
	9	同 上
	10	同 上
	11	今年度したことの全体を振り返り、愛とはどのように捉えられるべきものかについての参加者全員による議論。
	12	同 上
備考		

評価方法： 前期後期にそれぞれレポートを提出し、かつ全体議論に参加することが、
(提出課題、議論) 単位認定の最低条件。評価は主にレポートの内容によって決める。

ドイツの宗教

担当者：鈴木 康治

研究室：[736]

テキスト：新約聖書

目 標： おおよそ、宗教改革の問題の展開にある。ルターのGlaubeの問題を問う。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟 ()

	週	内 容
前 期	1	概要の説明をする
	2	神秘主義から始める理由
	3	修道院制度
	4	神秘主義の流れ
	5	神秘主義の神観 I (否定の神学)
	6	同 上 II (反対の一致)
	7	同 上 III (極上への道)
	8	エックハルトの神秘思想 I
	9	同 上 II
	10	同 上 III
	11	同 上 IV
	12	ドイツ神学について
備考		

	週	内 容
後 期	1	宗教改革の思想
	2	ルターの教養
	3	ルターの死の問題 I
	4	同 上 II
	5	信仰とわざの問題 I
	6	同 上 II
	7	同 上 III
	8	同 上 IV
	9	死の準備についての説教 I
	10	同 上 II
	11	死の問題 I
	12	同 上 II
備考		

ドイツの歴史

担当者：古田 善文

研究室：[505]

テキスト：

目 標：本講義では、19世紀後半以降のドイツ・オーストリアの歩みをたどりつつ「ドイツ（人）とは何か？」という問題を再検討してみます。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟()

	週	内 容
前 期	1	本年度の講義のねらい・評価方法等を説明します。
	2	序（1）歴史的問題意識をみがく——ヴァイツゼッカー大統領演説と「歴史家論争」を題材に戦後ドイツの歴史教育のありかたを学びます。
	3	序（2）歴史的問題意識をみがく——最近のオーストリアにおける近現代史見直しの動きを解説し、歴史教育の意義を明らかにします。
	4	プロイセンとハプスブルク——1871年のドイツ統一までの歴史を「小ドイツ主義」と「大ドイツ主義」の確執という観点からたどります。
	5	帝国主義と第1次世界大戦（その1）——ドイツ・オーストリアの帝国主義と第1次世界大戦勃発の原因を検討します。
	6	帝国主義と第1次世界大戦（その2）——第1次世界大戦の経過と帰結を検討し、大戦の歴史的意義をあきらかにします。
	7	ドイツ革命——1918年に勃発したドイツ革命の原因・展開・帰結を整理しながら、実現されなかった歴史的可能性を模索します。
	8	オーストリア革命——ドイツ革命との相違点・類似点を整理しながら、オーストリアにおける革命の特質を検討します。
	9	ヴェルサイユ [サン・ジェルマン] 条約——両条約の内容を具体的に検討し、2つの「ドイツ人」国家の国際的位置を確認します。
	10	ファシズム運動の誕生（その1）——ファシズム論の諸潮流を紹介し、ファシズムと呼ばれる運動・思想・体制の特質を検討します。
	11	ファシズム運動の誕生（その2）——ドイツ・オーストリアを例にファシズム運動成立の原因、初期の発展過程を検討します。
	12	予備日
備考		

	週	内 容
後 期	1	ヴァイマル文化 — ヴァイマル共和国・オーストリア第1共和国の文化・社会を多角的に比較検討します。
	2	世界経済恐慌とヒトラーの政権掌握 — 1929年の大恐慌がナチ党の躍進（＝民主主義の後退）に与えた影響を多角的に検討します。
	3	オーストリアの独裁 — ヒトラー政権成立後の1934年に樹立される埃ドルフェス体制の特質、独逸関係のあらたな展開を検討します。
	4	ドイツ第3帝国の内政と外交 — 大戦前夜（1933～1938年）の第3帝国の内政（ユダヤ人政策等を含む）、外交政策を概観します。
	5	アンシュルス（独逸合邦） — 1938年3月のドイツ軍のオーストリア侵攻前後の経過と帰結について整理します。
	6	ナチズムの受容と抵抗運動（その1） — 大戦勃発後のドイツにおけるナチズムと民衆の関係を多角的に検討します。
	7	ナチズムの受容と抵抗運動（その2） — 「国家喪失」期オーストリアにおけるナチズム（戦争）と民衆の関係を検討します。
	8	ドイツ第3帝国の崩壊と分割占領の開始 — 大戦の終結過程とドイツ・オーストリアに樹立された連合占領管理体制の特質を比較検討します。
	9	『第3の男』の時代 — 難民流入など大戦直後のドイツ・オーストリアが直面した社会・経済問題を多角的に検討します。
	10	ドイツ・オーストリアにおける「過去の克服」 — 「過去の克服」を目的として戦後展開された種々の試みの成果と限界を比較検討します。
	11	東西ドイツと中立オーストリア — 第3帝国の3つの「継承国家」における新たなナショナル・アイデンティティの形成過程を検討します。
	12	まとめ — 1年間の講義をふりかえると同時に、ECを媒介とする今後のあらたな独逸関係を展望してみます。
備 考		

参考文献：毎授業時に紹介します。（参考文献表を付した講義レジュメを配布します）

評価方法：前期レポート（B5版 400字詰め原稿用紙10枚程度）・後期テスト、出席状況を考慮して評価します。

ドイツの地誌

担当者：川野 諫

研究室：[513]

テキスト：なし

目 標：ドイツ語圏の自然環境について学ぶとともに、そこで営まれる人々の生活活動が、その環境といかにかかわりあっているかを理解する。またそれが我々と取りまく環境・生活とどのように異なっているかを考える。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟 ()

	週	内 容
前 期	1	1年間の講義概要の説明。
	2	地誌とは。 地理的知識の集積からその体系化へ。
	3	人類の生活空間の拡大と地図の変遷。さまざまな地図とそれに盛られた情報。
	4	ヨーロッパ及びドイツ語圏諸国の位置・範囲・規模。——日本との比較において——
	5	ヨーロッパの自然環境。海洋と陸地。半島としての特色。
	6	ヨーロッパの気候、ことに中部ヨーロッパの気候の特色とその生活への影響。
	7	ヨーロッパ、ことに中部ヨーロッパの地形区分。
	8	ヨーロッパ北西高地とスカンジナビア氷床。氷蝕作用。
	9	北ドイツの海岸地形。Nordsee と Ostsee の特色。
	10	北ドイツ低地。その① 氷河に覆われた地域。——Moräneの列。原流谷。——
	11	北ドイツ低地。その② Marsch, Geest, Moor, Bördeの成立とその特色。
	12	中央高地 (Mittelgebirge)の成立と、そこにおける人間活動。
備考		

週	内 容
1	アルプス山地。第三紀の褶曲運動。 スイス・オーストリアの人々の生活。
2	ドイツアルプスとその景観。
3	ドイツの河川の概要。 ライン川とその流域。
4	ドイツのその他の河川。 ドナウ、エルベ、ヴェーザー川とその流域。
5	ドイツ（語圏諸国）の行政区画。ドイツのalte Länder とneue Länder。
6	ドイツの産業概要。ドイツの地下資源。
7	ドイツの農林水産業。
8	ドイツの工業の特色。 工業地帯の分布。
9	ルール工業地帯。 その他の工業地帯。
10	オーストリア、スイスの産業。
11	ドイツを中心としたMitteleuropaの交通・運輸・観光。
12	年間を通しての講義内容のまとめ。
備考	

評価方法：評価は9月末日提出のレポートと学年末の筆記試験によって決定する。なお（提出課題、試験等）前期レポートを提出しない者、および欠席が著しく多い者（毎時間出席をとる）の学年末試験の受験は認めない。

	週	内 容
後 期	1	Besprechung der Testergebnisse des ersten Semesters Vorstellung des Unterrichtsprogramms des zweiten Semesters
	2	Föderalismus in der BRD (Bundesstaat):historischer Überblick, Funktion, Vor- und Nachteile;Mat. Info. z. p. B. Nr. 204
	3	Rechtsstaat / Sozialstaat:verfassungsrechtliche Bedeutung und Bezug zum Staatsbürger;Mat. : Nr. 200, 215
	4	Parteiensystem der BRD:Sinn und Funktion, historischer Überblick, im Bundestag vertretene Parteien, politische Orientierung;Mat. : Nr. 171, 207
	5	Wahlrecht und Wahlsystem der BRD I:Mehrheits- und Verhältniswahl, Auflösung des Bundestages, konstruktives Mißtrauensvotum; Mat. : 229
	6	Wahlrecht und Wahlsystem II:Vergleich der deutschen und japanischen Systeme
	7	Gesetzgebungsverfahren der BRD
	8	Politisches System der ehem. DDR, Vergleich mit der BRD;Mat. : Nr. 205, 231
	9	Die Teilung Deutschlands und seine Einigung;Mat. : Nr. 232, 233
	10	Deutschland und die EG;Mat. : 213
	11	Deutschland und die Vereinten Nationen
	12	Abschlußgespräch / Zusammenfassung des zweiten Semesters;Fragestunde / Wiederholung / Prüfungsvorbereitung
備 考		

ドイツの民俗

担当者：杉山 好

テキスト：バッハ『クリスマス・オラトリオ』歌詞対訳（プリントにて配布）

目 標：ドイツの民俗の重要な要素として、クリスマスとそれに因む音楽と民謡を
上げる。

年間予定

（ ）曜日：（ ）限：（ ）棟（ ）

	週	内 容
前 期	1	ドイツの民俗とはなにかの入門的概説。あわせて参考文献や年間授業の進め方を説明。
	2	教会暦による歳時記の解説と特にクリスマスの民俗的意味
	3	バッハの『クリスマス・オラトリオ』の成立背景、ドイツにおけるクリスマス音楽の伝統。
	4	シュッツの『クリスマス・ヒストリア』の考察とテープ鑑賞。
	5	バッハ『クリスマス・オラトリオ』第一部の歌詞と内容考察
	6	全上の音楽的構成、またそれに因むクリスマス民謡（その一）
	7	全上（その二）
	8	バッハ『クリスマス・オラトリオ』第二部の歌詞と内容考察
	9	全上の音楽的構成、またそれに因むクリスマス民謡（その一）
	10	全上（その二）
	11	バッハ『クリスマス・オラトリオ』第三部の歌詞と内容考察
	12	全上の音楽的構成。
備考		できるだけテープ録音で実際の演奏を聞くことに努める。（後期も同じ）

	週	内 容
後 期	1	バッハ『クリスマス・オラトリオ』第四部（取上げ方は前期のそれに準ずる。ただし後期は、クリスマス民謡との関連により多くの力点を置いて
	2	民謡資料をできるだけ多く取上げる予定。
	3	
	4	
	5	バッハ『クリスマス・オラトリオ』第五部
	6	
	7	
	8	
	9	バッハ『クリスマス・オラトリオ』第六部
	10	
	11	
	12	
備 考		

参考文献：ディーナー『ドイツ民俗学入門』（新文堂）

谷口他『図説ドイツ民俗学小辞典』（同学社）

評価方法：前期は筆記試験をせず、こちらからの課題と自主選択によるテーマのリポート（提出課題、試験等）ト2通（各400字5枚程度）を夏休み明けの最初の授業日に提出。

後期は、前期のリポート合格者に限って筆記試験を行ない、年間の総合単位を与える。

ドイツの音楽

担当者：近衛 秀健

テキスト：

目 標：音楽は先に体験し、それから学習する性質のものである。教室にあるVIDEO装置を利用し、ヨーロッパ音楽の特徴であり、人民族性がはっきり現れる音楽演奏形態としてオペラを鑑賞し、その時代背景、生活習慣、文化環境、表現様式、音楽形式、台本と音楽の相関関係を考えていきたい。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟()

	週	内 容
前 期	1	ドイツ及び中欧ドイツ語圏のオペラを毎時間一幕ずつ鑑賞する。その都度台本を配布、又その成立過程等を解説する。オペラは大体三幕構成なので前期に3
	2	乃至4個、後期も同じく、又同じものの異なった演奏の聞き比べ等も実施する
	3	
	4	
	5	
	6	
	7	
	8	
	9	
	10	
	11	
	12	大体の概念がつかめたところで前期まとめの出題をする。
備考		

	週	内 容
後 期	1	再び次のものを鑑賞する。
	2	
	3	
	4	
	5	
	6	
	7	
	8	
	9	
	10	
	11	
	12	ヨーロッパ人の生活になくはならぬものだったオペラの果した役割りについて考えてまとめの出題をする。
備考		

	週	内 容
後 期	1	建築構造に枠づけられた絵画・彫刻・ステンドグラス・工芸・庭園など。
	2	全上。
	3	全上。
	4	造型美術の総合の場としての建築の復活を目ざして——バウハウスの提起した問題。
	5	バウハウス登場の社会的背景。
	6	総合的造型活動の場としてのバウハウス——中世教会堂におけるバウヒュッテとの比較。
	7	全上。
	8	バウハウスの教育内容。
	9	全上。
	10	全上。
	11	バウハウスにおけるクレーとカンディンスキー。
	12	全上。
備 考		

参考文献： 講義のなかで、逐次内容説明とあわせて列記する。

評価方法： 後期末レポート。ただし、出題内容は、継続的に講義をきいていなければ、理解できない。

ドイツの演劇

担当者：越部 暉

テキスト：適時コピー・プリントを配布する。

目 標：主としてドイツの現代劇を扱う。しかし講義の主眼は演劇史や文学（戯曲）史を講じることにあつては、今日の（哲学・社会思想・心理学的）関心事からドイツ（や日本）の現代劇を「共時的」に捉え直すことにあつては。

年間予定 () 曜日：() 限：() 棟 ()

	週	内 容
前 期	1	年間の講義についてのオリエンテーション：（成績）評価方法を含む事務的事項の説明。／現代劇の諸問題。（主体－客体，個人－社会，意識－無意識等）
	2	講義に関する（或いは講義では触れられぬ）参考文献の指摘。可能な限り詳しく解説しながら受講者の参加への姿勢を促したい。
	3	現代劇の諸問題への理解を深めるための演劇史への回顧：アリストテレスの詩学，シェイクスピア劇，ブレヒト劇，ベケット劇，別役実劇等。
	4	同上。（幕割劇から場割劇へのドラマトゥルギーの変遷を含む）
	5	同上。（ブレヒトの叙事詩的演劇と非時代化・脱モラル化・両面価値化の方法を含む）
	6	ブレヒトのテキスト：『三文オペラ』を中心に。（K. ヴァイルの音楽も聞く）
	7	ブレヒトのテキスト：4大作品（『肝っ玉おっ母』『セチュアンの善人』『コーカサスの白墨の輪』『ガリレイの生涯』）について考える。
	8	ブレヒトのテキスト：『コーカサス』のビデオを観る。『ガリレイ』のカーニバルの場面を考える。
	9	ブレヒトとその教育劇について：『処置』を中心に。（パフチーンの両面価値の問題とハイナー・ミュラー劇にも触れる。）
	10	ミュラーのテキスト（I）：ブレヒトの教育劇の継承・発展者としてのミュラーを紹介する。
	11	同上。
	12	予備日。／前期レポート作成のための説明を行なう。
備考		

週	内 容
1	ペーター・ヴァイスの作品：『マラー／サド』劇を中心に。 (ホルクハイマー／アドル, 『啓蒙の弁証法』等にも触れる。)
2	同上。／世界演劇・記録演劇___新民衆劇について。(マクロ世界の演劇とミクロ世界の演劇)
3	ペーター・ハントケの作品：『カスパー』劇を中心に演劇改革的なその意義を拾う。
4	同上。／ホルヴァートとフライサーの言語：新民衆劇の先駆者としての両者のドラマトゥルギーを追う。
5	[脱線と頭の体操] デュレンマットの喜劇：現代悲劇を書こうとしながら結果として喜劇作家になってしまった作者のグロテスク劇の紹介。
6	新民衆劇作家シュベル, ファスビンダー, クレッツの言語：周辺の環境から失語症的人間たちが吹き出す普遍的な政治劇。
7	同上。／マルティン・ヴァルザーの意識の演劇：結果を描きながらその前の過程を彷彿させる非合理劇。
8	同上。／タンクレート・ドルスト劇とボート・シュトラウス劇：前者の清算されざる過去の問題を中心に。
9	シュトラウスのテキスト：マルクーゼ, フーコー, フロイト, ユングらの理論の助けを借りながらアパシーとセラピーの演劇を考える。
10	同上。／ミュラーのテキスト(Ⅱ)：『ハムレットマシーン』と脱構築的なアポリアなテキストたちの紹介。
11	ミュラーのテキスト(Ⅱ)：ドゥルーズ, ガタリ, レーマンらの理論の助けを借りながら演劇の未来と未来の演劇を考える。
12	「試験」の形で, 教場でレポートを正書し提出してもらう。
備考	

参考文献：教場で文献目録を配布し、詳しく解説をする。(前期第2週)

評価方法：評価は前後期各1回のレポートと授業への貢献度によって決定する。レポート(提出課題、試験等)に関しては内容以前に原稿用紙の使い方や、(内容をより説得力あるものにするための-参考文献などからの-引用の仕方を含む)書き方のほうに重点を置く。(この点に関しては前期最終授業時に説明を行なう)

前期レポートの提出日は後期第1週の授業日とする。(教場で提出)

後期レポートの提出日は後期最終授業時とする。(各自予め下書きを用意しておき、授業時間内に「試験」の形で答案用紙に正書し提出すること)

また授業への貢献度は、授業への参加度やレポート内への授業からの反映度などから算定する。

ドイツ文化特殊講義1

ドイツ史とナショナリズム

担当者：船戸 満之 研究室：[429]

テキスト：マンフレート・リンク著 ドイツの歴史 第三書房

目 標：ドイツ人やドイツ国という観念はいつごろ成立したか、国境線はどのように変化したかという観点からドイツ史を概観する。更にヒトラー時代のドイツ・ナショナリズムに知識人がどのように対応したかを考察する。

年間予定 () 曜日： () 限： () 棟 ()

週	内 容
1	年間の講義概要を説明する。
2	フランク王国からドイツ人国家が成立するまでを概観する。(以下、とりあげる時代の目安のみを示す。)
3	神聖ローマ帝国における中世ドイツ国家
4	中世末期
5	宗教改革
6	反宗教改革
7	絶対主義
8	フランス革命期と神聖ローマ帝国の終焉
9	ドイツ連邦とフランクフルト国民議会
10	ドイツ帝国
11	第1次大戦とドイツ革命
12	期末試験
備考	テキストはドイツ語であるが、講義では、これを購読しない。各人で読んできて欲しい。もしドイツ語が読めなければ、任意のドイツ史を読んでくればよい。

	週	内 容
後 期	1	ワイマール共和国
	2	第三帝国
	3	第二次大戦とその結果
	4	占領時代
	5	ドイツ連邦共和国とドイツ民主共和国
	6	ドイツ統一
	7	ヒトラー政権に対するドイツ知識人の対応を考察する。1) 1936年に国籍を剥奪されるまで、作家トーマン・マンはヒトラー政権にどう対応したか、
	8	2) プロイセン文学アカデミー総裁の作家ハインリヒ・マン（トーマスの兄）は、ナチスの政権獲得にどう対応したかを考察する。
	9	3) クラウス・マン（トーマスの息子）と詩人ゴットフリート・ベンの書簡の応酬にみられる政治的アンガージュマン。
	10	4) ナチスに対する加担を表明しながら、次第に距離をおく哲学者マルチン・ハイデッガーのナチス観の推移。
	11	5) ときにはファシスト心理学者とまで罵倒されたほどナチスにコミットしたC. G. ユングのナチス批判。
	12	期末試験
備考		

評価方法：前後期末の試験では、1) Reich, ドイツ連邦, ライン同盟, 領邦国家, (発出課題、試験等) 神聖ローマ帝国などの歴史的概念を理解しているかどうか 2) 国民国家という理念が、現在の世界でどのような役割をはたしていると思うか、という二点について出題する。

また聴講者が少ない場合は、討論を行い、レポートの作成, 発表などの課題を出す。聴講者が多い場合は、講義のテーマについて、ときにメモ程度の短い感想や意見を提出してもらうことがある。

ドイツ文化特殊講義 2

比較言語学入門

担当者：G. ヴィーノルト 研究室：[430]

テキスト：

目 標：Die Vorlesung dient der Einführung in die vergleichende Sprachwissenschaft.

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟 ()

	週	内 容
前 期	1	1. Einleitung
	2	2. Typologie : 2.1 Syntax: 2.1.1 Konstituentenstellung
	3	2.1.2 Konstituentenstellung: Die Verbreitung typologischer Eigenschaften
	4	2.2 Lexikon: 2.2.1 Bewegungsverben
	5	2.2.2 Farbwörter
	6	2.3 Morphologie: 2.3.1 Komposition und Affigierung
	7	2.3.2 Reduplikation, Vokalveränderungen im Morphem
	8	3. Genetischer Sprachvergleich (Sprachfamilien): 3.1 Die Sprachfamilien der Erde
	9	3.2 Die indoeuropäische Sprachfamilie
	10	3.3 Die Methoden der Rekonstruktion
	11	3.4 Die germanischen Sprachen, die deutsche Sprache unter den indoeuropäischen und germanischen Sprachen
	12	3.5 Sprachvergleich und Lehnwörter
備考		

週	内 容
1	4. Arealer Sprachvergleich (Sprachbünde): 4.1 Der westeuropäische Sprachbund
2	4.2 Andere Sprachbünde
3	4.3 Deutsch und Französisch, Deutsch und Englisch
4	4.4 Die Bedeutung des Lateinischen für das Deutsche und andere westeuropäische Sprachen
5	4.5 Sprachbünde im Verhältnis zu Sprachfamilien
6	4.6 Sprachbünde im Verhältnis zu Sprachtypen
7	5. Soziolinguistischer Sprachvergleich
8	5.1 Personalpronomina
9	5.2 Höflichkeit(Keigo)
10	6. Kulturelle Entwicklung und Sprachentwicklung
11	7. Kontrastiver Sprachvergleich
12	8. Zusammenfassende Vergleichung des Deutschen und des Japanischen
備 考	

参考文献：wird später bekanntgegeben.

評価方法：試験

(提出課題、試験等)

	週	内 容
後 期	1	ソ連占領地帯におけるSED（社会主義統一党）の成立について述べる。
	2	ソ連占領地帯における「反ファシズム民主主義的変革」を扱う。
	3	西側占領地帯における経済的社会的再編の問題を扱う。
	4	「戦後変革」との関連でドイツ連邦共和国（＝「西ドイツ」）の成立過程を検討する。
	5	第4週と同じ。
	6	ドイツ民主共和国（＝「東ドイツ」）の成立について述べる。
	7	第一回連邦議会選挙の結果とアデナウアー政権の成立について述べる。
	8	ドイツ連邦共和国成立当初の諸政党の歴史、性格、その後の発展について概観する。
	9	第8週と同じ。
	10	東西ドイツの「主権回復」過程およびその後の発展を問題にする。
	11	ドイツの再統一について述べ、今後のドイツの国際的地位について展望する。
	12	一年間の授業についての「まとめ」を行ない、定期試験に関し、出題方針を明らかにする。
備考		

参考文献：H. K. ルップ著，深谷満雄訳『現代ドイツ政治史』，有斐閣，1986年
 評価方法：評価は原則として学年末に行なう通年の定期試験による。

（提出課題、試験等）

ドイツの経済

担当者：大西 健夫

テキスト：大西 編 「ドイツの経済」早大出版部，1992。

目 標：本講義は、経済事情の概観を与えるものでなく、経済学の基本知識を学びながら、ドイツ経済の構造を理解することを目指す。

年間予定

() 曜日：() 限：() 棟()

	週	内 容
前 期	1	年間講義概要の説明とドイツ経済の特徴
	2	経済学の基本概念
	3	ドイツ経済のマクロ指標
	4	経済体制としての社会的市場経済
	5	社会的市場経済の経済政策
	6	戦後経済復興期
	7	高度成長期
	8	安定成長期
	9	旧東西ドイツの経済関係
	10	旧東ドイツの中央統制経済
	11	統一ドイツ経済
	12	旧東ドイツ地域の民営化
備考		

	週	内 容
後 期	1	経済と経済構造
	2	マクロ経済構造
	3	経済と政府，財政政策
	4	金融政策と銀行制度
	5	銀行と産業
	6	産業構造
	7	地域経済構造
	8	産業と企業
	9	貿易構造
	10	ドイツの国際収支表
	11	世界経済におけるドイツ
	12	日独経済関係
備 考		

評価方法：前期，後期とも期末に筆記試験を行う。

(提出課題、試験等)

	週	内 容
後 期	1	〈第2次大戦後のドイツ〉 — ドイツ連邦共和国成立、ベルリンの地位
	2	〈第2次大戦後のドイツ〉 — いわゆる「ドイツ内関係」
	3	〈第2次大戦後のドイツ〉 — ドイツ統一
	4	〈基本法（憲法）〉 — 国家構造の基本原理 — 連邦主義、民主主義、 法治国家、社会国家
	5	〈基本法（憲法）〉 — 国家機関 — 連邦議会、選挙制度、連邦参議院、 連邦会議、連邦大統領、裁判所
	6	〈基本法（憲法）〉 — 基本権 — 古典的・個人的自由権、経済的自由 権、政治的参加権、司法的保障、社会権
	7	〈基本法（憲法）〉 — 立法手続、基本法の改正
	8	〈司法制度〉 — 裁判官・検察官・弁護士、裁判権、通常裁判所の組織と 手続
	9	〈ドイツの社会と法〉 — 「愛されざる法律家」（概念法学、自由法論）・ 「ナチズムと法律家」（法実証主義）
	10	〈現代ドイツと法〉 — 戦う民主主義、法秩序の防衛、法律家
	11	調整日
	12	調整日
備 考		

参考文献：山田 晟『ドイツ法概論Ⅰ』有斐閣

戒能通厚・広渡清吾『外国法—イギリス・ドイツの社会と法』岩波書店

団藤重光『刑法綱要総論』創文社

評価方法：試験は前期と後期の試験期間中に筆記試験にて行う。

（提出課題、試験等）参照物は不可。

なお、各種レポートなどを課題とする。